

2024年の広島県を振り返って

今年も残すところ1週間となりました。年内最後となる本稿では、「2024年の広島県」を簡単に振り返ってみました。

転出超過数が3年連続全国最多

今年1月、総務省より2023年の「住民基本台帳人口移動報告」が公表され、広島県の社会増減数（転入－転出）は▲11,409人で、3年連続して全国最多の転出超過となりました（図表1）。とくに就職や転業・転職、進学を機に、若い世代の大都市圏への流出が続いています。

少子高齢化と人口減少の加速が見込まれる中で、地域活力の一段の低下が懸念されており、持続的な地域社会の実現に向け、官民一体となった取り組みの強化が求められています。

「エディオンピースウィング広島」が開業

2月には、「エディオンピースウィング広島」がサンフレッチェ広島の新本拠地として開業し、約28,500人収容の“街中”スタジアムには県内外から多くのサポーターが来場しました。チームは残念ながら2位となりましたが、リーグ戦最終節まで優勝争いを繰り広げて大いに盛り上がり、年間入場者数は48万人を超えて過去最多を記録しました（図表2）。

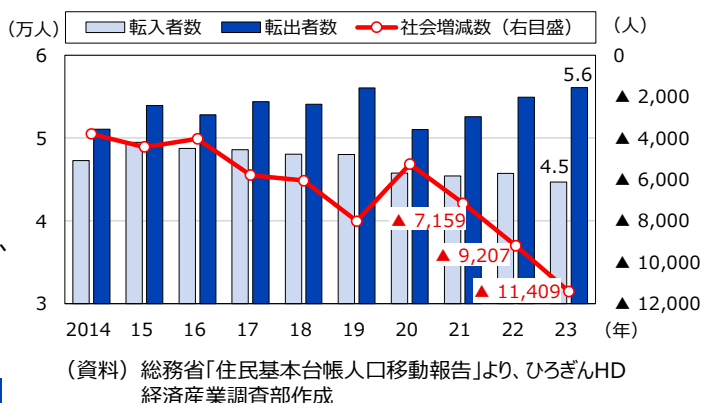
8月には「スタジアムパーク」がオープンし、隣接する「ゲートパーク」とともに街の回遊性も高まっています。スポーツツーリズムと街の賑わい創出に向けた広島の可能性がさらに広がった1年になりました。

「日本被団協」がノーベル平和賞を受賞

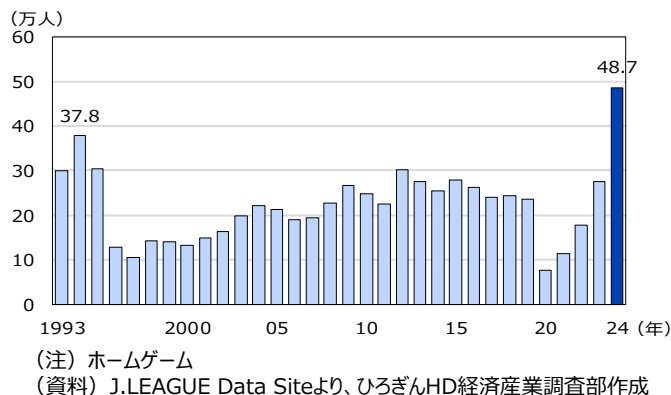
10月には、広島・長崎で原爆被害を受けた被爆者の唯一の全国組織「日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）」のノーベル平和賞受賞が発表され、12月にノルウェーのオスロで授賞式が行われました。

「核のない世界」の実現に向け、長年にわたる被爆体験の証言活動を通じて、核兵器の廃絶や被爆の実相に対する理解の促進に取り組んできた地道な努力が評価されました。

図表1 広島県の社会増減数の推移



図表2 サンフレッチェ広島の年間入場者数の推移



そのほかにも、広島ドラゴンフライズのBリーグ初優勝（5月）やインバウンドの回復が進む中で宮島の年間来島者数が過去最高に達する見通しであるなど、話題の多い1年となりました。

2025年は「被爆80年」の節目を迎え、陸の玄関口JR新広島駅ビルが開業の予定です。来年も「活力ある」広島県の「元気の出る」話題が発信され、世界と全国の注目を集める年となることを期待したいと思います。

- ◆ 本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ◆ 本資料は、信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容等は作成時点のものであり、今後予告なく修正、変更されることがあります。資料のご利用に関しては、お客さまご自身の責任において判断なされますよう、お願い申し上げます。
- ◆ 本資料に関連して生じた一切の損害については、責任を負いません。その他、専門的知識に係る問題については、必ず弁護士、税理士、公認会計士等の専門家に相談のうえ、ご確認ください。
- ◆ 本資料の一部または全部を、当社の事前の了承なく複製または転送等を行うことを禁じます。
- ◆ 本件に関するご照会は、ひろぎんHD経済産業調査部 担当：古谷（Tel.082-247-4958）までお願いします。